

令和4年9月1日に思う

大地に多くの恵みをもたらす雨。何度も繰り返しますが、昨今その雨の「降りよう、降り方」がとても気になります。

昔ふうに言うと、土砂降りの雨が「地域を限定して、かつ短時間」で降っています。まさに、好ましくない事が常態化しており、各地に甚大な被害をもたらしています。

昨年につきこの夏も、お盆前後にどちらかと言うと強い雨に縁のない東北、北陸、北海道で豪雨が記録されました。台風8号の襲来はもとより、毎日のように前線の停滞が起こり、記録的短時間大雨情報の発令、線状降水帯の発生等々が報道され、心が安まるどころか恐怖さえ感じる日々であったと思います。

あらためて被災地の皆さまに心よりお見舞いを申し上げますとともに1日も早い復興をお祈りしたいと思います。

異常な雨の降り方は、「気がかりなこと」ではなく、統計や記録データ上で明確に見えます。

先般、NHKが放送したニュースによりますと、例えば8月1日から20日までの間の降水量（平年比）は、青森県のF町で740%、A市で610%あったとされていました。また140年あるいは80年という観測史上最も多い雨と記録された地域も多数ありました。明らかに“異常事態、であります。

気象庁では、昨今の猛暑や大雨の要因に「偏西風の蛇行」があるとしています。今後、詳しく解析されると思いますが。

まさに本格的な台風シーズンです。さらに防災意識を高め、家のまわりの整理整頓、非常持出袋の点検など出来るかぎりの「備え」をしましょう。